

出題分析			
試験時間	60分	配点	40点
		大問数	5題
分量 (昨年比較)	[減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/>	難易度変化 (昨年比較)	[易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化 <input type="checkbox"/>
【概評】 出題形式は選択式問題 34 問と論述問題 1 題で、論述問題の文字数が 250～300 字だった。論述問題を除く大問 4 題は正誤文判定問題が中心で例年通りだった。正誤文判定問題は一部に細かい問題があったものの、比較的判断しやすい問題が多く、論述も頻出のテーマで書きやすかった。総合すると難易度は昨年並みと言える。内容としては古代から近代まで幅広い問題が出題された。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	近現代朝鮮半島史	近現代の朝鮮半島史が中心の出題で、現代史対策の有無が問われた。年代並び替え問題の二問について、設問 2 は A～C の年代がやや近くて並べにくい、D の光州事件が最初に来ることだけわかれば正答できる。設問 8 も B の年代が特定できなくても A→C→D がわかれば④に絞れる。知識が足りなくても工夫して正解を導きたい。正誤判定問題では、設問 4、ソ連欠席の安保理決議であったため④は誤文。設問 7 の満洲国の成立当初の溥儀は皇帝ではなく執政であったことに注意しよう。設問 9、金日成は 1994 年に死んでいるので、1997 年に発生したアジア通貨危機とは無関係。	標準
II	古代ギリシア史中心の西洋史	9 問中 5 問を古代ギリシア史が占めた。設問 6、パルテノン神殿がドーリア式であることは正しいが、ドーリア式は荘重さが特徴である。優美さを特徴とするのはイオニア式。設問 8、中世のミラノやブリュージュは毛織物産業が盛んな都市。鉱山開発を基盤に発展したのはアウクスブルクだが、この都市は南ドイツに位置してハンザ同盟の中心ではない。設問 9、インノケンティウス 3 世はカンタベリ大司教の任命問題でジョン王を破門にした。	標準

設問別講評			
III	近代ヨーロッパ史	設問1の年代並び替え問題は容易。設問2はフリードリヒ＝ヴィルヘルム大選帝侯を知らなくても消去法で解ける。設問3, ドゥーマの開設は1905年ロシア革命後で, アレクサンドル2世の改革に含まれない。またノルウェーの独立は1905年。設問4, 自由主義者は文化闘争では政府と連携し, 政教分離を推進する立場であった。設問5, ビスマルクはフランスの関心を北アフリカに向けることでドイツから逸らす意図で, フランスのチュニジア支配を承認した。また, これによりイタリアとフランスの対立を煽って三国同盟の成立につなげた。これ自体はかなり細かい知識なので, 消去法で解答しよう。	標準
IV	近世～近代の西アジア史・ヨーロッパ史	リード文はオスマン帝国史だが, 設問は雑多な内容である。設問7, ロカルノ条約の調印はルール占領の撤兵開始後で, これらに直接的なつながりはない。設問8, ナチス＝ドイツはザール地方を住民投票で併合したので, 侵攻ではない。	標準
V	シオニズム運動史	第一次世界大戦中からイスラエル建国までのシオニズム運動史が出題された。大論述では頻出のテーマであり, 処理に困る指定語句も無かったので多くの受験生にとっては書きやすかったのではないか。問題の要求に「ユダヤ人にとってこの土地の持つ意味を示しながら」とあるので, これに答えるのを忘れないようにしたい。	やや易

合格のための学習法

正誤文判定問題の難易度は, 早稲田大学の中では高くない部類に入る。基本的な教科書学習と用語集による補足を中心に学習を進めていけば, 十分対応できる。論述問題は指定語句を軸に, 書くべき要素を組み立てていくことが基本である。個々の指定語句が全体の流れの中でどんな意味をもっているのかを理解することが大切である。解答作成の手順を, 過去問等を利用して訓練していこう。